

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年3月10日(2005.3.10)

【公表番号】特表2000-515195(P2000-515195A)

【公表日】平成12年11月14日(2000.11.14)

【出願番号】特願平10-507183

【国際特許分類第7版】

C 0 8 F 4/70

C 0 7 C 251/20

C 0 7 F 15/04

C 0 8 F 10/00

【F I】

C 0 8 F 4/70

C 0 7 C 251/20

C 0 7 F 15/04

C 0 8 F 10/00

【手続補正書】

【提出日】平成16年7月7日(2004.7.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年7月7日

特許庁長官 小川 洋 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第507183号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名称 イー・アイ・デュポン・ドウ・ヌムール・アンド・
カンパニー

3. 代理人

〒107-0052

住所 東京都港区赤坂1丁目9番15号

日本自転車会館

氏名 (6078)弁理士 小田島 平吉

電話 3585-2256



4. 補正命令の日付 なし

5. 補正の対象

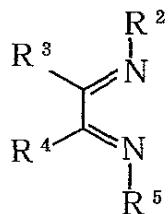
請求の範囲



6. 指正の内容

請求の範囲の記載を、次のとおり訂正する。

『1. 約-100°C～約+200°Cの温度において、(I)のNi [I]
I] またはPd [II] 錯体、



(I)

ニッケルまたはパラジウム化合物にヒドロカルビル基を移すことのできる金属含有ヒドロカルビル化化合物、及びB(C₆F₅)₃, AlCl₃, AlBr₃, Al(OTf)₃, 及び(R¹³R¹⁴R¹⁵C)Yからなる群から選択される化合物(II)を、オレフィンと接触させることを含んでなる、但し、

該オレフィンがエチレン、式R¹⁷CH=CH₂またはR¹⁷CH=CHR¹⁷のオレフィン、シクロブテン、シクロペンテン、及びノルボルネンからなる群から選択され、

R²及びR⁵が、両R²及びR⁵においてイミノ窒素原子に直接結合する炭素原子に結合した炭素原子の少なくとも1つがそれに結合するいずれの水素原子も有さないという条件下に、それぞれ独立にアリールまたは置換アリールであり、

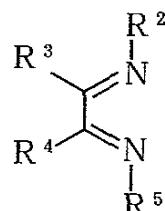
R³及びR⁴がそれぞれ独立に水素、ヒドロカルビル、置換ヒドロカルビルであり、或いはR³及びR⁴が一緒になってヒドロカルビレンまたは置換ヒドロカルビレンであって炭素環式環を形成し、

R^{13} 、 R^{14} 及び R^{15} はそれぞれ独立にアリールまたは置換アリールで
あり、

各 R^{17} が、該オレフィン中のオレフィン結合が第4級炭素原子または
少なくとも2つの飽和炭素原子によっていずれか他のオレフィン結合ま
たは芳香族環から隔離されているという条件下に、独立にヒドロカルビ
ルまたは置換ヒドロカルビルであり、そして

Y が弱く配位するアニオンである、
該オレフィンの重合法。

2. (I) を含むNi [II] またはPd [II] 塩



(I)

を、ニッケルまたはパラジウム化合物にヒドロカルビル基を移すことの
できる金属含有ヒドロカルビル化化合物、及び随时B (C_6F_5)₃、A
ICl₃、AlBr₃、Al(OTf)₃、及び($R^{13}R^{14}R^{15}C$) Y か
らなる群から選択される化合物(II)と共に、オレフィンと接触させ
ることを含んでなる、但し、

該Ni [II] またはPd [II] 塩がNi (O₂CR⁷)₂、Ni [R⁸COCH=CH (O) R⁸]₂、NiX₂、L¹L²NiX₂、Ni (OR¹⁸)₂、Pd (O₂CR⁹)₂、Pd [R¹⁰COCH=CH (O) R¹⁰]₂、Pd
X₂、L¹L²PdX₂、及びPd (OR¹⁹)₂からなる群から選択され、
該オレフィンがエチレン、式 $R^{17}CH=CH_2$ または $R^{17}CH=CH$

R^{17} のオレフィン、シクロブテン、シクロペンテン、及びノルボルネンからなる群から選択され、

R^2 及び R^5 が、両 R^2 及び R^5 においてイミノ窒素原子に直接結合する炭素原子に結合した炭素原子の少なくとも1つがそれに結合するいずれの水素原子も有さない条件下に、それぞれ独立にアリールまたは置換アリールであり、

R^3 及び R^4 がそれぞれ独立に水素、ヒドロカルビル、置換ヒドロカルビルであり、或いは R^3 及び R^4 は一緒になってヒドロカルビレンまたは置換ヒドロカルビレンであって炭素環式環を形成し、

R^{13} 、 R^{14} 及び R^{15} がそれぞれ独立にアリールまたは置換アリールであり、

各 R^{17} が、該オレフィン中のオレフィン結合が第4級炭素原子または少なくとも2つの飽和炭素原子によっていずれか他のオレフィン結合または芳香族環から隔離されているという条件下に、独立にヒドロカルビルまたは置換ヒドロカルビルであり、そして

各 R^{18} 及び R^{19} が独立にヒドロカルビル、置換ヒドロカルビル、または $R^{21}SO_3^-$ であり、

各 R^7 、 R^8 、 R^9 及び R^{10} が独立に炭素数1～20のヒドロカルビルまたは置換ヒドロカルビルであり、

各Xが独立にハロゲンまたは $R^{21}SO_3^-$ であり、

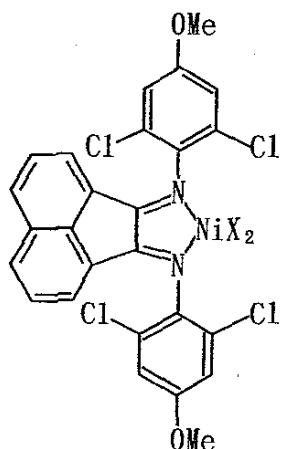
各 R^{21} が独立にアリール、置換アリールまたはパーフルオロアルキルであり、

L^1 及び L^2 が、独立に(I)で置換されうる配位子または一緒になって(I)で置換されうる2価の配位子であり、そして

Yが弱く配位するアニオンである、なお
 該ヒドロカルビル化化合物がアルミニウム原子に結合した1つまたは
 それ以上のハロゲン原子を含むアルキルアルミニウム化合物或いは(R
²⁰A1O)_q以外であるとき、(II)が存在しなければならない、こ
 こにR²⁰がアルキルでありそしてqは正の整数である、
 該オレフィンの重合法。

3. 該オレフィンがエチレンである、請求の範囲1または2の方法。

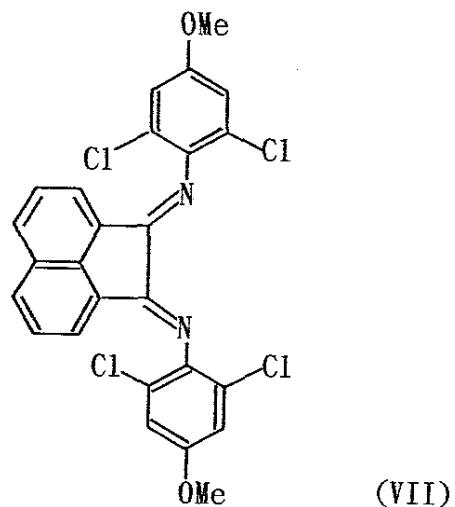
4. 式



4

[式中、各Xは独立にハロゲン、R⁷CO₂、R⁸COCH=C(O)
 R⁸、またはOR¹⁸であり、各R¹⁸は独立にヒドロカルビルであり、
 そしてR⁷、R⁸は炭素数1～20のヒドロカルビルまたは置換ヒド
 ロカルビルである]
 の化合物。

5. 式



の化合物。』